



# 多彩な魚種に歓声

## チビっ子、夏休み最後の大はしゃぎ

### 8月23日「日本建設組合連合会長杯・つり大会」

「日本建設組合連合会長杯・つり大会」(主催・日建設組合連合、後援・スポーツニッポン新聞社、特別協賛・オーナーぱり)が23日、和歌山マリーナシティ釣り公園(和歌山市毛見)で開かれ、ハリに掛かった魚が跳ねるたびに、ちびっ子の歓声が薄曇りの空に響いた。(平井 忠)



風もあまり吹かない釣り日和のなか、夏休み最終日の休日を家族で楽しむ。8月23日、和歌山マリーナシティ釣り公園を貸し切り223人が集合



「日本建設組合連合賞」 吉田峻章さん(中)は2年連続V。2位の中嶋佐恵さん(左)、3位の福嶋咲和さん



「日本建設組合連合賞II」 吉田峻章(東大阪市、13歳)4180g、2位 中嶋佐恵(堺市、5歳)3860g、3位 福嶋咲和(堺市、7歳)2130g

「特別賞」城本大鶴(和歌山市、太田羽琉(大阪府東区、岩佐大智(大阪府東区、勝目崇喜(藤井寺市、新田重斗(高槻市、吉田颯真(堺市、東野心春(大阪府生野区、表君衣(有田郡ほか4名)敬称略

## 釣りで深める家族、組合員の絆

年に一度の釣り大会、毎年サビキ釣りの好ポイントにエントリするグループが増えている。朝の時に他のポイントではほとんど見かけなかった小アジがぼつぼつ当たり、アミエビに寄せられたグレ15〜20センチやカワハギなども釣れていた。西コーナの実力は陽が昇ってからさらに発揮される。ウリボウ(イサギの幼魚)、スズメダイが日中でもサビキ仕掛けに掛かる。アジやウリボウなどの総重量で競う日本建設組合連合賞優勝、スポーツニッポン新聞社賞でも3位に入賞した吉田峻章さんはこのコーナーでサオを出していた。他魚の1尾長寸で順位を競うオーナーぱり賞で優勝した渡邊浩太郎さんは突堤の先端からカゴ釣り仕掛けで30センチオーバーのアイゴを仕留めた。「最初からアイゴを釣ってやろうと遠投してアタリを待ちました。9時ごろにやっとハリに乗せることができました」と口元をほころばせる。

大会も回を追うごとにねらい方や仕掛けに工夫や幅が出て、対象魚を絞ってやって来る人も増えてきた。ウリボウ、スズメダイが昨年と同じく主役ながら木ノ葉グレ、チヌ、アイゴ、小アジ、カワハギ、ヘダイ、マイワシ、キス、カンパチの若魚、シオなど多彩な魚種が審査に提出され、特にチヌは良型こそ見られなかったが紀州釣り、フカセ釣り、サビキ釣りで順調にヒットしていた。

釣果より家族のレクリエーションや親睦、組合員同士の交流が目的の大会。お父さんがわが子の仕掛けの面倒を見たり、隣同士でエサを交換、仕掛け作りを手伝ったりと和やかな雰囲気。のなか、楽しい思い出をクラーボックスに詰めて午前10時の納竿を迎えた。

和歌山マリーナシティ釣り公園は埋立護岸を整備した釣り専用スペース。南に面した5000坪を超える柵付き護岸を中心に、東の付け根から突き出た幅の広い50坪ほどの柵のない護岸(突堤)もあり、射しを避けるため23日は午前中、大会のため貸し切りとなっていた。

ゲートを入場して左手正面の突堤は海側に障害物がないためフカセ釣りや紀州釣りで遠くに仕掛けを飛ばせる。右に折れ、柵のある護岸で自分たちの釣座を探す参加者は安全第一、サビキ仕掛けで小魚の釣りを楽しむファミリーが中心。祖父母、父母、その子供たちと親子3代のグループの姿もある。

上位を目指す人たちは柵付き護岸の先端、西のコーナーに急ぐ。ここは水通しがよいのと奥に架かる橋下の日陰が小魚たちの避暑地に最適、